

# 小学校英語指導者のための Phonemic Awareness 育成を目指す音声教材開発

—現職小学校教員を対象とした意識調査に基づいて—

金澤 延美 伊東 弥香  
(東海大学)

Development of Phonemic Awareness-focused Teaching Materials for Elementary School English in Japan: Based on the surveys on elementary school teachers' attitudes toward English activities

Nobumi KANAZAWA Mika ITO  
(Tokai University)

平成23年度から小学校5・6年生を対象とした外国語活動（英語）が必修領域となる。しかし、教科導入ではないため教員養成は行われず、英語活動は英語科教員免許を持たない現職小学校教員の手任せられることになる上に、政府による教員研修の具体的な指針も決まっていない。このような状況を目前にし、周囲のみならず、小学校教員達が自らの「英語教授力」、とくに英語力に不安を抱えていると考えられる。

本論では、小学校教員が持つ「英語力に対する不安感」を少しでも取り除き、「英語教授力」の向上を目指すための研修用CD試作教材の開発と、試作教材に関するアンケート調査の結果について報告する。試作に先立って実施した現職小学校教員を対象とした2つの意識調査の結果からは、「Phonemic Awareness（音素への気づき）」の育成を目指す音声教材の有用性が示唆されたが、アンケート調査はそれを実証する形となった。

キーワード：phonemic awareness, 小学校英語, 指導者研修, 教材開発

## 1. はじめに

平成23年度からの新学習指導要領の実施に伴い、小学校5・6年生の外国語活動（英語）の必修化が決まった（文部科学省、2008）。文部科学省は、平成20年度に全国の拠点校で「英語ノート（試作版）」を活用した取り組みを推進するなど、小学校の英語活動の指導方法等の確立を図っているが、日本がかつて経験したことのない状況を目前にして、教育現場の混乱と教員の不安感が大きなものであることは明らかである。

## 2. 研究の目的と背景

本研究の目的は、日本の小学校英語活動の指導体制の実情を鑑み、音声活動と相乗効果を生むような文字導入方法を検討し、指導者研修のための音声試作教材を教育現場に提供することである。本論では、

目的達成のために現職の小学校教員を対象に実施した次の3つの調査について報告する。

- ・「英語活動」に関する意識調査－調査(1)
- ・CD試作教材の開発－調査(2)
- ・CD試作教材に関するアンケート調査－調査(3)

## 3. 調査(1)

現職公立小学校教員を対象とした「英語活動」に関する意識調査は、「予備調査」と「本調査」の計2回行なった。

### 3.1 意識調査の概要

平成14年4月から始まった現行の英語活動では、小学校教員が指導の中心となっているが、小学校教員の「英語教授力」に懸念を抱く周囲の声とともに、教員達自身が英語活動に対して大きな不安を持って

いることを指摘する先行研究が数多くある。筆者らはこのような状況をふまえ、英語活動の正式導入を直前に控えた東京のある校区の教員達を被験者とした意識調査（予備調査）を行った（平成18年2～3月）。この予備調査の結果からは、教員達が小学校英語について具体的なイメージを持っておらず、指導者研修に対しても消極的であることが示唆された。

続く本調査（平成18年2～5月および平成19年2月）では、小学校英語活動の実施経験の違いから生ずる意識の差を明らかにしながら、教員達が考える「指導者の資質」と望ましい「指導者研修」の在り方を検討することを目的とした。

### 3.2 意識調査の対象

予備調査、本調査ともに、現職の公立小学校教員（200名、600名）を対象とした。

### 3.3 意識調査の調査項目と形式

予備調査、本調査ともに同一の調査項目と形式を使用した。

#### (Part I) (全9項目、選択式)

(1) 回答者の属性－①性別、②年齢、③所属、④教員歴、⑤英語活動の経験

(2) 勤務校の英語活動状況－①実施の有無、②指導状況、③対象学年、④指導者

#### (Part II) (全5項目一下位26項目、選択式)

小学校「英語活動」の指導者に求められる：①資質、②授業場面で必要な資質・能力、③英語教授に関する知識、④英語圏文化の背景知識の有無、⑤英語力

#### (Part III) (全4項目一下位21項目、選択式)

小学校の「英語活動」のための「指導者研修」：①（回答者にとっての）指導者研修、②参加してみたい研修の内容、③興味ある自己研修の方法・媒体、④参加してみたい指導技術・方法を目的とした研修内容

#### (Part IV) (自由記述) 小学校の英語活動についての意見

#### (Part V) (自由記述) 小学校の英語活動のための指導者研修についての意見

なお、Part II、Part IIIには下位項目を設けそれぞれに対し、5段階評価で回答してもらった。これらについては報告済みであるため（伊東・金澤，2007；金澤・伊東，2008a）、本論ではCD教材開発にあたって回答者の生の声を生かすための参考資料

として用いた本調査のPart Vについて述べる。

### 3.4 本調査の自由記述

以下に、本調査のPart V（自由記述）について報告する。自由記述に関しては、本調査の回答者のうち178人から意見が寄せられた（30.4%）。これらの意見を具体的に検討するために、以下の5つのカテゴリーに分類した。

- (1) 研修の実施形態について
- (2) 教員の負担・不安について
- (3) 研修の必要性について
- (4) 研修の内容について
- (5) その他

さらに、各カテゴリーに含まれる内容と、英語活動の経験の有無による記述を分類した（表1）。

表1 小学校「英語活動」のための指導者研修

カテゴリー・ 主な内容	件数	英語活動の経験			順位
		あり	なし	不明	
(1) 研修の実施形態について					
時期・時間帯について	12	3	9	0	3
制度について	3	1	1	1	14
研修を担当する指導者について	2	0	2	0	16
その他	3	0	2	1	
計	20	4	14	2	
(2) 教員の負担・不安について					
英語活動のための時間が無い	10	1	9	0	4
英語活動は負担になる	7	2	5	0	9
英語ができないことへの不安・抵抗	4	1	2	1	13
その他	5	4	1	0	
計	26	8	17	1	
(3) 研修の必要性について					
必要である	27	10	17	0	1
必要でない	6	2	1	3	11
その他	2	2	0	0	
計	35	14	18	3	

(4) 研修の内容について					
具体的な指導法	17	6	10	1	2
すぐに授業で活用できるゲームなどの教材	9	1	7	1	5
チーム・ティーチングなどを含むALTとの関わりについて	8	4	4	0	5
教師自身の英語力の向上	8	1	7	0	5
実技研修	6	1	5	0	11
場の使い方	3	0	3	0	14
きちんとした英語	2	1	1	0	16
児童が楽しめるもの	2	2	0	0	16
その他	10	4	5	1	
計	65	20	42	3	
(5) その他					
英語を専科にするか、専門の教師が教えるべき	7	1	3	3	9
特になし	8	3	4	1	5
その他	17	6	8	3	
計	32	10	15	7	
合計	178	56	106	16	

### 3.5 指導者研修についての意見

以下に、自由記述で得られた指導者研修に関するコメントの一部、とくに教材に関わるものを中心にオリジナルのままで紹介する。但し、所属校など個人を特定する情報については削除して掲載するものとする。回答の冒頭にある数字は各回答者に与えた個人番号である。

#### (1) 研修の実施形態について

20. 教員養成課程の中で位置づけることが望ましい。(30代女性、経験あり)
26. 機器は利用すべきであり、機器だよりにするのではなく、人間対人間で研修すべきだと思います。(20代男性、経験あり)
133. 勤務時間内に研修できるのがベストである。専科が良いと思う(図工や音楽のように)。(40代女性、経験なし)
138. 参加しやすい時間帯に研修会を行ってほしい。(50代女性、経験なし)
167. きちんとした発音ができる人(ALTを含めて)を指導者として確保すべき。(40代女性、経験あり)

224. 忙しい勤務の中で研修に出るのは難しい。月に一度の研修等に行ったり、行けなかったりでは全く身につかないと思われる。夏休みなど、集中して等の研修などが必要だと思われる。海外で生活する経験は必要だと思う。7～8日位の海外旅行では遊びにすぎないと思う。(50代女性、経験なし)

301. 長期休業日等に定期的にやってほしい。(20代男性、経験あり)

436. 授業時間をけずらないでほしいので、出張ではなく、学校へ講師を3:00ごろに派遣して、校内研修としてやっていただきたいと思う。内容は楽しい内容で、子どもにすぐ実践できるもの。(50代女性、経験あり)

439. 夏休みなどを利用して、長い研修会(1週間～2週間)がほしいです。1日や2日ではとても英語の力も、指導力も身につかないと思います。学習したり、研修したりする意欲はありますが、参加する研修会が少ないというのが現状です。(50代女性、経験あり)

479. できる範囲で、たくさんの方が参加できるような時期や時間帯を工夫して欲しい。(40代男性、経験あり)

501. ○○等の研修を夏季休暇等で研修として認めてほしい。又、そのような時間をとれるよう研修(自己)の時間がほしい。もしできれば費用の一部負担等あれば尚良いと思う。(40代女性)

530. 授業に差しさわりのない時間帯で(長期休業中等)研修を充実させてほしい。普段は出張することが難しい。(50代女性、経験なし)

576. 勤務時間内での研修を計画的に設定してほしい。(50代女性、経験あり)

578. 機会があり、時間が合えば大いに参加して学びたい。しかし回数や研修場所(移動時間)を考えると難しい。校内での研修だと、移動時間がないが、講師側に時間の負担がかかってしまう。問題点はいろいろあるが、多くの中から選んで都合のつくものに参加できるよう多様な形態の研修があるとうれしい。(20代女性、経験あり)

581. 勤務時間内にしていただけると助かります。(30代男性、経験あり)

#### (2) 教員の負担・不安について

18. 英語が分からないという意識があると、指導

- する場合にも思うようにできない。ゲームやチャンツ等の経験がなく、文法や読解を学んできた時代の先生たちは、どうやって活動をしたらいいのかわからないと思う。チャンツやゲームはおもしろいという感覚は得られるが、それが英語を話せるにつながるのか不安が残る。小学校でどの程度の英語レベルでどのような活動をしたらよいか知りたい。(20代女性、経験あり)
28. 導入の前にまず現場の教師の不安をとり除くこと(研修、研究等)に力をいれるべき。教師自身が英語を話すことに抵抗があるのではないか。エクササイズ、ALTの導入で日常の中で話す機会など増やし、抵抗を少しでもなくすことって大切ではないですか?(30代女性、経験なし)
177. 負担のないように。やるなら勤務時間内で。ゆとりのない勤務にならないようにしてほしい。担任でなく外部講師に任せられるようにしてほしい。(50代女性、経験なし)
223. 現実にはもう授業が始まるのにまだ対応が来ていない。早く安心できる様にしたい。(50代男性、経験なし)
259. 今から私自身のヒアリングや発音等の力を高めていくのは時間もないし、難しいことのように感じている。しかし、教師が自信なく授業をするのはいけないことなので、できる限り頑張りたい。(20代女性、経験なし)
346. 実際に担任も英会話をして授業ができたらいいいし、すべきだと思うが、他の研修で手一杯でそこまでまわらないのが現状。(20代女性、経験あり)
354. 他の研修等で日々追われています。英語活動までは手がまわりません。(50代女性、経験なし)
380. 忙しい時間の中で英語の指導計画を各自でたてることはとても大変なので、CDやビデオ、カード、絵本などがあるのはとても助かります。担任が中心になるのではなく、ALT、JTEが中心になって担任は補佐する程度がよいと思う。(50代、経験あり)
537. 英語活動を進める以上必要な指導内容や技術は研修で身につけていくしかない。現実には日常の研修は難しい。休業中や校内研修に位置づけた研修を意図的計画的に進めていく。大学教職課程でのカリキュラムに入れて進めてほしい。(50代男性、経験なし)
556. 英会話の研修と指導法の研修の両方の必要性を感じている。勤務時間内に研修できるのがよいのだが、現状では物理的にむずかしい(会議等もあり)。(50代女性、経験あり)
- (3) 研修の必要性について
6. 指導者研修はなくてはならないと思います。英語力の向上・授業方法について指導計画の作成についてなど項目毎に細かな研修が充実しているといいと思いました。今日はありがとうございました。(30代女性、経験なし)
10. とにかく研修会と教材を提供してほしい。教材を開発してきていない学校ではものすごく大変で4月から行うには時間がなさ過ぎる。なんでこんな急なんでしょう。手作りするものでも沢山費用がかかる。予算をたくさんつけてください。研修会は隔週または月1はほしい! ALTとの打ち合わせも英語となるとこれまた大変。研修会時にあるといい。通訳がほしいくらい。(40代女性、経験なし)
27. ぜひ英語活動を体験し、指導法、活動の形態などが広く深く学べる場があるといいです。日常の学級経営の中で、warm airをつくっていきけるようがんばっていきます!(20代女性、経験あり)
305. 恥かしながら、担任の英語力が未熟なために、子どもたちに適切な支援ができずいることが度々ありました。やはり、教室英語だけでも、身につけておく必要があると思います。(20代女性、経験なし)
339. 英語で遊ぶ程度の研修は必要。(50代男性、経験なし)
449. 担任でもある程度英語に興味のある者もいるので、研修の時間をふやして、英語の授業のいろいろな方法をしり、指導に対してもっと参加していきたい。(50代女性、経験あり)
472. 指導者も事前に英会話を自己研修する事も必要であると思う。ALTが主となって行っている授業であっても、指導者が内容を理解していなければ子ども達に英会話の楽しさが伝わらなくなり、子ども自身が英会話に対する学ぶ姿勢が身に付かなくなってしまうのではないかと。(20代女性、経験あり)

- (4) 研修の内容について
3. 指導、Lesson plan。(40代女性、経験なし)
11. 子どもの興味・関心をひく授業を目指して学びたいと思っています。(20代女性、経験なし)
12. 「0からのスタート」の教員、学校が多いので「自分にもやれそうだ。」と思うような研修内容にしてほしい。(50代女性、経験なし)
14. パフォーマンスの素地が大事。ニュージーランド、オーストラリアで研修(視察)をした折、教師に必須の条件と感じました。特に英語を指導するためには大事だと思います。(60代男性、経験あり)
31. 何より、どんなことをどのような教材で・・といったことを教授してほしい。(30代男性、経験なし)
34. 低・中・高によって、子ども達の英語活動への取り組み方が違うと思われるので、発達段階をふまえた英語活動の研修が必要だと思います。全校的に英語活動に取り組むためには、勤務時間内や長期休業中、希望した先生方が全員参加できるような体制を整えていただきたいと思います。(50代女性、経験あり)
61. 授業で活用できる単語カード+絵、ゲーム等を入手したい。その利用例もぜひ体験したいと思う。英語力向上、授業技術向上を願う教員はそのための時間、努力、費用を自費でまかなっていることが多いと思う。忙しい中、さらに時間を見出して語学スクールに通っているが、教師としての研究、研修としての位置づけがないため、単に興味としての評価しかされない。学校として、都として、バックアップを統一して実施すべきかと思う。(30代男性、経験あり)
63. 英語が得意ではない人でも少し努力すれば児童に教えられる指導法を学びたいです。ゲームや歌などを通して楽しく教えることができれば教師も進んで英語教育に取り組むことができると思います。(30代男性、経験あり)
72. 理論、実施計画も大切だが、具体的な指導の仕方、教材、教具の研修したい。(40代男性、経験なし)
81. 小学生の子どもに、どの程度英語活動が必要なのか、具体的な指導計画(学年ごと)。発音などの指導、英語活動についての基本的な考え方、
- など基礎的・基本的なことを学びたいです。(20代女性、経験なし)
89. 指導計画についての研修も必須であるが、ALTをより活用するためにも教師がALTとコミュニケーションが取れるよう、教師の英語力をUPするための研修が必要。(20代男性、経験あり)
119. 子ども達が楽しめ、他の教科に影響のない程度の準備でする方法。語彙が少なくてもできること等を勤務時間内で研修したい。(30代女性)
160. 子ども達が楽しく英語に親しみ、国際理解を深めていくために、小学校でどのような英語活動をするべきなのか、基本的なところから段階をふんで研修できるとよいです。初めて英語に接する子ども達に、本当はネイティブスピーカーの発音をしっかり聞かせてあげるべきだと思うので、ALTとの橋わたしをどのようにし、TTを組んでやっていったらよいのかという研修もしていただきたいと思います。(40代女性、経験あり)
176. 全科の中で英語の教授法は小学校課程で昔なかったもので、きちんと教えてほしい。(40代男性、経験あり)
232. 担任とALTの授業のデモンストレーション。TTの方法を教えてください。(20代女性、経験あり)
234. 授業に使える研修を多くとり入れてほしい。(50代男性、経験なし)
241. 英語を専門に学んだ人が指導技術を習得できるような研修をしてほしい。(40代女性、経験あり)
257. 指導者自身が英語アレルギーを治すことから始められるとよいと思う。(私を含めて)自分としてはよい研修があれば参加したいと思っています。(30代男性、経験あり)
258. 研修は必要だと思います。しかし、大きなジェスチャーはいらないし、フォーマルな英語、知性に訴える楽しさのある英語、豊かな心につながる英語の研修を望みます。(40代女性、経験あり)
262. それぞれの学年の年間を見通した教材や歌、チャンツなどの研修があるとよい。週に1度なので、それほど多くの事は学べないし、日本語を極力使わないということで、わからないストレスで

- 英語嫌いにしてしまっている部分もあるように思う。担任の役割についての研修も必要なのでは…  
(40代女性、経験あり)
269. 子どもと同じようにくり返しくり返し同じことを練習することが大切だなと思いました。授業で使うビデオ (DVD) が一人一人に配られるといいなと思いました。(20代女性、経験なし)
275. 日本語英語を教えるのはいかがなものか。きちんとした発音ができる人に正しい英語を伝えてほしい。今の教員を使って「英語の授業」ははっきり言って無理があると思う。(50代女性、経験なし)
284. 歌などで口ならし、耳ならしをする効果はあると思うが、スベルチェックや単語ゲームはたとえビデオで見たことのあるものでも書けないし、書く必要性を感じない。(20代女性、経験なし)
314. ALT との英会話が出来ようになりたい…(個人的には) いつも日本語の話せる人が ALT とは限らないので。子どもが楽しんで英語に取り組める授業方法がわかる研修に取り組みたい。(30代女性、経験あり)
330. 自分が中心となって進めようとする、かなりプレッシャーがあるが、ALT との T・T という形で進めると、少し自信がついてくるので、そういった研修 (自分 (担任) がどうかかわっていくのか) があるとやりやすい。(50代女性、経験あり)
344. 指導者にも子どもと同様に英語の楽しさが伝わるような指導法や実際に体験することもできるとうれいです。(50代女性、経験あり)
349. 英会話の授業では、自分がどれだけ参加しているかわからず、教師自身が受け身になってしまっている。どのように参加していけばいいか、くわしく学んでいきたい。(20代男性、経験あり)
350. もっと私自身、英語を勉強しておけばと反省しています。ゲーム等楽しくできる研修だと嬉しいのですが。(50代女性、経験あり)
369. 日常会話の言いまわしを覚えるとよいと思う。(50代男性、経験あり)
373. まず日常的な英語程度はできる必要がある。(40代女性、経験あり)
378. 授業実践のためのノウハウが身につく研修が良い。(40代男性、経験あり)
398. 日常会話の研修がしてみたい。(50代男性、経験なし)
420. 小学生ならではの英語活動とはどのようなものか。文法ではなく、音から取り組むと考えても、やはり 6 学年それぞれの成長段階の差が大きいので、実際に研修をするのなら全ての学年に 1 ヶ月程度関わると見えてくるものがあると思います。(20代女性、経験あり)
423. 教師一人でも授業ができるよう研修をすべき。マニュアル、教材などを用意して模擬授業をしたり、ネイティブの人と話したりする機会を持つ研修があるとよい。(30代女性、経験あり)
452. すぐ使える英語やゲームを学びたいです。(20代女性、経験あり)
456. 英会話の授業を行うための指導技術を学びたい。個人としては、英会話スキルの向上をめざしている。(40代男性、経験あり)
488. 日常会話の向上、正しい発音の仕方、楽しんでできるゲームや歌について学びたい。(30代女性、経験あり)
509. ビデオ教材や CD 教材のより効果的な活用方法等を研修したい。日常会話についても、より円滑にできるよう研修したい。(50代男性)
573. やるならば授業に即生かせるものを望みます。(40代女性、経験あり)

### 3.6 考察

指導者研修に関する自由記述については、回答者のうち英語活動の「経験なし106件」で、「経験あり56件」の2倍近くであった。このことから、「経験なし」の教員が英語活動への期待あるいは不安を持っていることが推察された。また、(2) 教員の負担・不安、(4) 研修の内容とともに、「経験なし」教員からの回答数が多いことから、研修に対して様々なことを期待し、望んでいることが関連していると思われる。さらに、(2) の「英語活動のための時間がない」「英語活動は負担になる」という回答の内訳がどちらも「経験なし」教員が多かった。このことは、すでに活動を始めている教員に限られた時間の中で何とか物理的・精神的負担と折り合いをつけながら、英語活動という新しい職務をこなそうとする姿の表れなのかもしれない。

英語活動の経験の有無による違いに注目すると、

今後の小学校英語の必修化・教科化に向けての大切な第一歩のためには、教員達、とくに経験のない教員に対して、英語活動が大きな負担ではなく、日々の業務の中でうまく実施していける可能性を実証し、教員達の不安を和らげていくことが肝要であると思われる。

#### 4. 調査 (2)

上記の予備・本調査の他、平成18年と平成19年に韓国への視察調査(金澤・伊東、2007)および台湾への視察調査を行った。これらの結果から、筆者らは次の3点をふまえた指導者のためのCD教材、とくに忙しい教員達が勤務時間内・外の空き時間を利用できるようなCD教材の開発が望ましいという結論に達した(金澤・伊東、2008b)。

(1) 長期展望に立った一貫性に位置づけるための小学校英語プログラムの必要性

(2) 音声活動から文字への段階指導におけるPhonemic Awareness育成の必要性

(3) 小学校英語指導者の「英語教授力」育成と、「音声教材」開発の必要性

##### 4.1 CD 試作教材のねらい

日本人の苦手な音を念頭に置き、英語の歌やチャンツを使いながら「Phonemic Awareness (音への気づき)」を育成することをCD教材開発の目標とした。日本人にとって英語の発音が難しい理由の1つは、英語が強勢型言語(強勢の置かれる音節が等時性を持って現れる)に対して、日本語はモーラ型言語(モーラが等時性を持ってほぼ等しく現れる)という違いにある。CD教材ではこの違いを知り、聞く力、話す力を強化しながらPhonemic Awarenessの育成に焦点をあてた。

##### 4.2 選曲基準

Phonemic Awareness育成のための練習が可能であることを選曲基準にした。

###### (1) 子音を中心に学べるもの

外国語を学ぶときは学習者の母語との類似性が大きな影響を持つと考えられるが、日本人は母音をきっかけに音を認識する傾向にあるため、英語の子

音の区別がとくに難しい。一方、子音は唇の形や舌の位置、発音方法が母音よりも分かりやすいため、子音を認識し、破裂音などをはっきり発音できると英語らしくなる。

以下の子音を歌詞に含む選曲とした。

###### ①日本語にも近い音がある子音：

< /b/ /p/ >、< /t/ /d/ >、< /h/ >、  
< /s/ /z/ >、< /j/ >、< /l/ /m/ >

###### ②有声音と無声音：

< /b/ /p/ >、< /t/ /d/ >、< /s/ /z/ >、  
< /v/ /f/ >

###### ③日本語にない子音：

< /v/ >、< /f/ >、< /r/ >

##### (2) 伝承唄、チャンツ、ライム

マザーグースなど英語圏で長く継承されてきた伝承唄やチャンツ、童謡などを中心に選んだ。「伝承唄」やこれに遊びを付加した「伝承唄遊び」は、英語特有の発音、発声、リズム、抑揚を身につける上で有用であると考えられる。

##### (3) アクティビティに発展できるもの

選曲にあたっては、アクティビティにも発展できることも考慮した。

①メロディや歌詞などがよく知られていて、なじみがある

②歌詞が易しく、日常会話での使用頻度が高い単語で構成されている

③基本的なPhonemic Awarenessの練習ができる単語やフレーズが入っている

④歌詞が短く、繰り返し練習するのに適している

⑤日本語にないライミングが歌詞に入っている

⑥手拍子、振り付け、手遊び、遊戯、ゲーム、輪唱など、楽しく歌える

##### 4.3 CD教材とCD解説書－「歌って学ぼう アルファベットの音と文字」

CDのタイトルは「歌って学ぼう アルファベットの音と文字－英語の音への気づき－」とし、利用者中心の参加型教材にした。CD解説書には、CD収録内容(全10曲、収録時間－約70分)を台本の形でそのまま取め、イラストによる説明を加えて、利用者の理解を促すための工夫をした(全64ページ)。



### (1) CD 教材—収録曲

全10曲と、焦点をあてた音は次の通りである。

- ① Ten Fat Sausages (/b/ /p/)
- ② Teddy Bear (/t/ /d/)
- ③ Hichory Dickory Dock (/h/)
- ④ Sally Go Round the Sun (/s/ /z/)
- ⑤ Two Little Blackbirds (/j/)
- ⑥ Rain Rain Go Away (ライミング)
- ⑦ Mary Had A Little Lamb (/l/ /m/)
- ⑧ Row Row Row Your Boat (/r/)
- ⑨ Five Little Fishes (/f/)
- ⑩ Phonics Alphabet Song (アルファベット26文字と音)

### (2) CD 教材—構成

小学校教員がCDを利用して英語の音に慣れ親しみながら、Phonemic Awarenessを育成できるように、各収録曲で焦点をあてる音、アルファベットの「音」と「名前」の関係、音の成り立ちなどについて、ネイティブ・スピーカーと日本人スピーカー（各1名）による説明を加えた。それぞれの曲については、次のような5つのパートで構成した（1曲目と2曲目は除く）。

- ① 「曲の紹介」・・・ネイティブ・スピーカーによる吹き込み
- ② 「歌とアルファベットの音の解説」・・・焦点をあてる音の解説
- ③ 「アルファベットの音の練習」・・・歌の中に出てくる単語を使ってアルファベットの「音」と「名前」の関係の説明や、音の成り立ちの練習
- ④ 「聞き取り練習」・・・焦点をあてた音の聞き取り練習
- ⑤ 「教室英語」・・・練習した音を使う教室英語の紹介（日本語訳つき）

日本人にとって難しい強勢については、文と単語の中の両方の強勢に対応できるように配慮し、音とリズムをとりながら練習できるように工夫した。例えば、歌詞の中の単語を利用して、「(手を5回たたきながら)ソーセージ」(日本語)、「(手を2回たたきながら)sausage」(英語)というように、日本語と英語の違いを意識しながらアルファベットの音を体感できるようにした。

### (3) CD 解説書—構成

CD解説書は、それぞれの曲（1曲目と10曲目は除く）ごとに6ページ構成にした

- ① 1ページ・・・歌詞（英語、日本語訳、イラストつき）
- ② 2～4ページ・・・歌とアルファベットの音の解説（イラストつき）、アルファベットの音の練習、聞き取り練習、教室英語（イラストつき）
- ③ 5ページ・・・早口言葉・ことわざ
- ④ 6ページ・・・アクティビティ

1ページから4ページ（①、②）にはCD収録内容を台本の形でそのまま収め、焦点をあてた音の口の開き具合や息の出し方などの説明の補助のためにイラストを使った。5ページ（③）では、焦点をあてた音が入った早口言葉やことわざを紹介した。早口言葉にはナンセンスなものが多いため、易しい単語やなじみのある表現を使ったものを中心に選択し、英語の音を楽しむためにあえて日本語訳を載せなかった。6ページ（④）には、教室での実践を想定して、CDには収録しなかったアクティビティ（ペア、グループ、クラス全体でできるPhonemic Awarenessを意識したアクティビティ）案を紹介した。

### 4.4 考察

筆者らにとって、Phonemic Awareness育成を目指すための基準を満たす選曲は想像以上に困難であった。また、全10曲のうち6曲は、市販教材を出版社から2次使用許可を得たが（注）、残る4曲については、経験豊富なプロのアメリカ人男性声優にナレーションと歌の両方を担当してもらうことにした。「アルファベットの個々の音や単語の発音をはっきりと分かりやすく発音し、感情移入した読み方、歌い方ができる」ネイティブ・スピーカーという筆者らの希望条件を満たす人物であったことは、CD教材を作成する上で大きな助けとなった。技術者1人を加えた録音スタジオでの収録作業は大きな問題も無く進み、筆者らのイメージに近い形の試作品ができたと考える。

### 5. 調査 (3)

CD教材とCD解説書の試作後、前述の予備調査と本調査の協力者を中心に試作品を提供し、小学校



教員の声をさらに反映させた教材開発研究を進めるために、本試作品に対する意見やコメントを求めるアンケート調査を行なった。

### 5.1 アンケート調査の概要

**目的：**今後の音声教材開発研究の参考資料とするために、小学校英語指導者のために試作したCD教材CD解説書「歌って学ぼう アルファベットの音と文字-英語の音への気づき」を小学校教員達に提供し、アンケート調査によるフィードバックを集計・分析する。

**期間：**平成20年3月～11月

**方法：**

- (1) アンケートの依頼方法・・・CD教材および解説書の郵送時に、アンケート調査一式を同封し、「小学校英語指導者のためのCD教材に関するアンケート調査」（資料1参照のこと）の回答を依頼した。アンケート調査の一式は、①調査票、②依頼文、③返信用ファックス送り状、④返信用封筒（切手貼付）。
- (2) アンケートの回収方法・・・回答者がファックス、郵送のいずれかの方法を選び、調査票を返送する。

**対象：**予備・本調査の協力校（27校）と、協力校以外に所属する小学校教員（筆者らの関わった教員研修と学会に参加した23名）に郵送。

**回数枚数：**計22名（回収率44.0%）

### 5.2 アンケート調査項目と形式

「小学校英語指導者のためのCD教材に関するアンケート調査」の調査項目と形式は以下の通りである。

**(Part I) (全9項目、選択式)**

- (1) 回答者の属性－①性別、②年齢、③担任、④教員歴、⑤英語活動の経験
- (2) 勤務校の英語活動状況－①実施年数、②年間実施数、③対象学年、④指導者

**(Part II) (全9項目一下位36項目、選択式)**

CD教材「歌って学ぼう アルファベットの音と文字」：①CDの使用、②CD教材とCD解説書、③「歌とアルファベットの音の解説」、④「アルファベットの音の練習」、⑤「聞き取り練習」、⑥「教室英語」、⑦「早口言葉・ことわざ」、⑧「アクティ

ビティ」、⑨CD教材とCD解説書

**(Part III) (全2項目一下位11項目、選択式)**

小学校指導者用「自己研修教材」：①自己研修教材、②自己研修教材の内容

**(Part IV) (自由記述)**「CD教材『歌って学ぼう アルファベットの音と文字』についての意見」

**(Part V) (自由記述)**「『小学校英語必修化』についての意見」

なお、Part II、Part IIIには下位項目を設けそれぞれに対し、5段階評価で回答してもらい、コメント欄も設けた。

### 5.3 アンケート調査の結果

以下、アンケート調査の結果の概要について述べる（資料2参照のこと）。

#### (1) 回答者の属性について

回答者の属性については、女性が男性の約3倍であり、年齢は40代が最も多いが、20代女性と40代女性は同人数であった（資料2-表2）。教員歴については、1～5年の教員が6人と最も多かったが、20年以上の教員も6人おり、さまざまな立場の教員の意見が反映されていると考えられる。英語活動の経験については、回答者22名のうち1名を除き、全ての回答者が英語活動の経験者であった。このことから、回答者が自身の英語活動経験に基づいて本CD教材の有用性について回答していると推察される。

#### (2) CDの使用について

本CDの使用については、63.6%の回答者が全ての内容を聞いていた。このことから、本CDに対する意見は今後の参考資料になり得ると考えられる。また、30%を越える回答者が2回以上聞いていることから、本CDへの興味・関心の度合いは決して低くはないであろう。CDの使用場所については、勤務先でCDを聞いた回答者が最も多かったが（資料2-表3）、回答者の学校の英語活動で活用したいという考えが示唆される。この傾向は、後述の自由記述からも推察できる。

#### (3) CD教材とCD解説書について－「英語の音と

#### 文字」の理解・練習に役立ちましたか

「早口言葉・ことわざ」を除き(資料2-表4)、「そう思う」と「やや思う」が約80%を占めたことから、全体的に本CD教材・解説書が好意的に受けとめられているということがうかがわれる。「早口言葉・ことわざ」についても、「そう思う」と「やや思う」の合計68.2%という数値は決して低くはないが、「どちらでもない」が22.7%(5名)だった理由の1つとしては、後述のようにCDに収録されていなかったために評価ができなかったことが考えられるだろう。

#### (4) 「歌とアルファベットの音の解説」「アルファベットの音の練習」「聞き取り練習」について — 「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

「歌とアルファベットの音の解説」「アルファベットの音の練習」とともに、全ての項目に対して、「そう思う」と「やや思う」と回答した割合が70%を超えていることから、音への意識の高さがうかがえる。とくに「ネイティブ・スピーカーの英語」や「練習問題」については90%を超えており、ネイティブ・スピーカーの発音に対する回答者の意識がとくに高いことが示唆される(資料2-表5)。

「聞き取り練習」の「量」については、「そう思う」と「やや思う」の回答が80%を超えていた(資料2-表6)。しかし一方で、「やや思う」「余りそう思わない」「そう思わない」の合計が59.0%であり、「練習量がもう少しあるとよい」とのコメントもあることから、練習量をもっと多いことを望む回答者もいたということかもしれない。

「聞き取り練習」の「難易度」については、「そう思う」が45.5%だったが、「やや思う」「余り思わない」「そう思わない」との回答が45.4%とほぼ同じ割合を占めた(資料2-表7)。「易しすぎる」「少し難しい」などコメントにバラツキも見られたことから、何らかの改善の必要性が示唆される。

#### ■コメント：

- ・練習問題の量はもう少しあるといいかなと思います。
- ・易しすぎるのではないかと感じた。
- ・聞きとりの問題は少し難しいように感じました。

・量を増やして欲しい

#### (5) 「教室英語」について— 「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

「教室英語」の「数」については、回答者の95.5%が「そう思う」「やや思う」と回答しており(資料2-表8)、回答者が教育現場で「すぐに使えるもの」を求めている様子がコメントからもうかがわれる。また、「教室英語」が回答者にとってニーズが高いということは、後述の「自己研修教材」に関する質問への回答結果からも推察される。「教室英語」の「難易度」については、「そう思う」「やや思う」が63.6%であったことから(資料2-表9)、適切なレベルであったと言えそうである。

#### ■コメント：

- ・難しすぎず使えそうだった。
- ・教室英語は、アルファベットの発音別よりも使う場面で、すぐ引き出せるようになっていた方が使いやすい。
- ・チャンツで練習できるようにしてほしい

#### (6) 「早口言葉・ことわざ」について— 何らかの改善が必要だと思いますか

CDに音源を収めなかったため、改善の必要性の有無について尋ねた。「早口言葉・ことわざ」がCDには入っていないなかったために評価をしなかったと思われる回答者が3名(13.6%)いたが、全ての項目(「音声による説明・解説」「ネイティブ・スピーカーの英語」「教室英語」「イラスト」)において、「どちらでもない」「余りそう思わない」「そう思わない」を選択する割合の合計が半数を超えていたことから、改善の必要性は少ないと思われる。

しかし、それぞれの回答結果を詳しく見ると、改善点として提示した「音声による説明・解説」(資料2-表10)と「ネイティブ・スピーカーの英語」(資料2-表11)の数値にはバラツキがあり、寄せられたコメントとも矛盾が生じているため、回答者がどの程度、改善を求めているのかが分からないという問題点が浮き彫りになった。

上記のような結果から、この質問項目に関しては、残念ながら回答者が質問を理解していたかが疑問視される。また、コメントにも見られるように、CD

教材そのものが指導者用なのか、教室用なのか、回答者が把握できていないという問題もあったようである。

■コメント：

- ・これは指導者練習用でしょうか？それとも子どもと一緒に練習することも考えているのでしょうか？
- ・早口言葉はとても言いづらいので気を付けるポイント、うまくいうポイントを教えてほしい。また、ネイティブ・スピーカーの英語を聞いて正しい発音を知りたい。
- ・歌には訳がついているが、ことわざにはない。訳しにくいものもあるでしょうが、内容がわからないのは頭に入りにくい。
- ・CDに入っていないので…耳から練習できません。
- ・CDになし。
- ・ネイティブ・スピーカーの英語がないところもあるので全てに欲しい。

(7) 「アクティビティ」について一何らかの改善が必要だと思いますか

「早口言葉・ことわざ」と同様、「アクティビティ」も改善の必要性の有無について尋ねたが、これもCDには入っていなかったために評価をしなかったと思われる無回答者が3名(13.6%)いた。また、「アクティビティ」についても、「早口言葉・ことわざ」同様、回答者が質問を理解していなかった可能性があるように思われる。コメントからは、説明を補足するためのイラストや絵を求める意見など、回答者の改善に対する興味・関心の高さがうかがえる。このことは、実際に授業の中で利用したいという教員の気持ちの表れと言えるのではないか。やはり、教員達は、自分の英語力を伸ばすためだけの自己研修だけでなく、日々の授業で活用できるものを求めているのだろう。

■コメント：

- ・ゲームの簡単な絵。雰囲気わかるので。
- ・振り付けの意味がわかりにくい時がある。アクティビティの欄に教室英語はあまりのっていない。イラストはアクティビティの内容が想像できるイラストでない。

- ・文字だけだしイメージが頭にうかびにくいです。イラストがたくさんあったほうがよいです。
- ・CDになし。

(8) 「CD教材とCD解説書について一どのような「英語授力」の向上に役立つと思いますか

本CD教材・解説書と「英語授業力」向上との関係については、「英語を聞く力」「英語の発音」「教室英語」にとって役立つ(「そう思う」と「やや思う」)を選択した回答者が約90%に達していた(資料2-表12~表14)。とくに「発音」についての評価が高く、「そう思う」と答えた回答者は全体の72.7%を占めた。この回答結果からも、回答者の「音声活動」に対する意識の高さが明らかになったと考えられる。

(9) 自己研修教材について一どのようなものが役立つと思いますか

「自己研修教材」として最も支持されたのは「CD教材」で、「そう思う」が77.3%であった(資料2-表15)。「そう思う」と「やや思う」を併せると「CD教材」と「マニュアル」がともに90.9%という結果となり、次いで「ビデオ教材」の68.3%であった(資料2-表16、資料2-表17)。このことから、解説書が付いた本CD教材のような自己研修教材は、指導者にとって有用である可能性が高いと言えるのではないだろうか。

(10) 自己研修教材の内容について一どのような内容が役立つと思いますか

「自己研修教材」の内容については、90%以上の回答者が「そう思う」を選んだ「教室英語」が最も役立つと考えられ、「やや思う」を加えると100%になった(資料2-表18)。この結果は、前述の「教室英語」に関する調査結果とも一致し、回答者達が日々の現場ですぐに使えるものを求めていることがうかがえる。また、全回答者が「そう思う」もしくは「やや思う」と回答した他の項目が「歌・チャンツ」「ゲーム」「絵本」であることから、幅広い内容を持つ教材を指導者が求めていることも示唆される。

(11) 自由記述について

CD教材「歌って学ぼう アルファベットの音と文字」に対する意見(Part IV-自由記述)を分類す

ると以下ようになる(資料2-表19)。また、コメントについては、「良かった点」「改善して欲しい点」「その他」で分類したものをオリジナルのまま以下に掲載する。

#### ■良かった点

##### 発音：

- ・1つ1つの音を意識するのにとても役立ちました。
- ・子音の発音は、はっきりしていて良いと思う
- ・発音に自信がもてずにいるので、詳細な解説と発音を聞くことができたことが、とても良かったです。
- ・音の違いを意識して聞き分けるために、このCDは有効であると思いました。
- ・注意して発音すべき音がちょうどよい量でとり上げられていてよかったです。聞き取り練習もあり、飽きずに聞くことができました。一番教師が自信がないのが発音なので、役立ちました。
- ・発音に不安を持っている小学校教員にとって優れた教材である。
- ・発音については詳しく説明があり、様々な形の練習がついていることで理解→実践となり、くり返し行くとかなりききとり力やよりネイティブに近く発音する力が伸びると思う。

##### 歌・チャンツ：

- ・教室英語でよく使う単語や、フレーズの発音の仕方がよくわかった。歌もテンポのよいものが多く楽しめそうである。
- ・歌やチャンツがあって、文字による解説とCDによる解説が両方あってたいへんわかりやすかったです。
- ・音楽、ネイティブによる発音(練習)、解説・・・といろいろな要素がもり込まれていて、楽しく聞き学びました。よかったです。
- ・各歌やチャンツに関して取り上げるターゲットの音(Teddy Bearならtとbなど)が明記されているのが分かりやすく良かったです。

##### テキスト：

- ・テキストはコンパクトな内容で、さし絵(歌の)があって良い。

#### ■改善して欲しい点

##### CDに入れて欲しいもの：

- ・教材本にはあるのにCDには入っていない歌やチャンツがあって残念でした。
- ・早口言葉を実際に聞きたかったです。
- ・私は英語の発音には自信がないのでネイティブによる歌やチャンツがあると直接児童に聞かせることができると思います。

##### その他：

- ・歌はチャンツ?の振り付けをCDできいてもやはりすぐには理解できないのでビデオ(DVD)のほうが良い

#### ■その他

- ・正しい発音の方法を知って身につけることは大切だと思うが、発音にこだわりすぎて言葉が出なくなることが心配
- ・超多忙な小学校現場からすると、練習時間を取りにくい。

## 5.5 考察

アンケート調査結果をまとめると、次のようなことが今後の参考資料として有用であると考えられる。

- (1) アンケート回収数が少なかった(22名)が、回答者のうち21名が「英語活動」の経験者で、年齢など、幅広い分布であったことから、比較的偏りが少なく、教育現場の意見を反映した意見を聞くことができたのではないかと。
- (2) CDの使用場所として、「勤務先」が約60%と最も多かったことから、多忙な勤務時間の合間に利用できる自己研修のためのCD教材の有用性が考えられる。また、自宅に持ち帰らず職場に置いておくことで、「英語活動」ですぐに活用したいという考えを持っているのではないかと。
- (3) 本CD教材の主な4つの構成内容-「歌とアルファベットの音の解説」「アルファベットの音の練習」「聞き取り練習」「教室英語」に対して、「英語の音と文字」の理解に役に立った(「そう思う」と答えた回答者が半数を上回ったことから、教員の「音声活動」への意識の高さがうかがえる。とくに「ネイティブ・スピーカーの発音」への意識は高く、「アルファベットの音の練習」の中で「ネイティブ・スピーカーの英

語」を有用とした回答(「そう思う」)が77.3%(表5)であったことは特筆すべき点であり、ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチング(TT)を想定した回答とも考えられる。

- (4) 「教室英語」については、改善に対する具体的なコメントもあり、現場でのニーズの高さが示唆された。その理由として、「英語活動」を担当とALTとのTT、あるいは担当が単独で行う場合でも、指示の方法やほめ方など、自らの英語活動体験を通じて、「教室英語」の重要性や必要性を実感しているからではないだろうか。
- (5) 録音時間の制限から、「早口言葉・ことわざ」「アクティビティ」については、ネイティブ・スピーカーの吹き込みをあきらめざるを得なかった。しかし、回答結果から、音源に対する要望が少なくないことがうかがわれた。「早口言葉」は短いものが多く、英語の音に慣れるために有用であると考えられるので、ネイティブ・スピーカーの吹き込んだものを繰り返して録音したり、ネイティブスピーカーの話すスピードそのものを最初は遅くして、徐々に早めていくなど、スピード調整をした形で録音するなど、工夫することが出来そうである。また、日本語訳を紹介するか否かについても検討が必要である。
- (6) 「アクティビティ」に関するコメントなど、実際に「英語活動」で実践してみたいという希望が読み取れるものがいくつか見られた。教員が研修で学んだことを教育現場で実践するためには、忙しい仕事の合間に使用することも考慮し、分かりやすい説明およびイラストなどを利用して具体的なイメージがすぐにわくような工夫をすることも必要だろう。机上の知識から実践に導くような教材を提供することによって、教員達の英語活動に対するモチベーションを高めることにつながるのではないかと。
- (7) 今回のアンケート調査の質問項目と形式については、本CD教材と解説書が「小学校英語指導者のため参加型教材」であることを前提としていた。この点については、CDと解説書の両方で説明を試みているが、残念ながら、その点が伝わらなかった回答者がいたようである。今後の改善のためには、タイトルの変更や工夫も必要かもしれない。

- (8) 今回のアンケート調査の質問形式の中で、「役立ったか」「何らかの改善が必要か」という2つの異なる質問を用いたために、回答者が質問を理解できなかった可能性があった。このことはコメントのバラツキからも推測されるが、集計結果の信頼性に大きく影響を与えるものである。今後は、細心の注意をもって、アンケート調査票の作成にあたりたい。
- (9) アンケート調査の質問形式については、文言の統一性を優先した結果、「そう思う」「やや思う」「どちらでもない」「余り思わない」「そう思わない」という選択肢を用いたが、回答者から適切な評価を得ることができなかったと思われる設問があった。例えば、「聞き取り練習」の「量」の改善のためには「多い」から「少ない」、また「難易度」については「易しい」から「難しい」までの5段階評価の方がより適切な選択肢であったと考えられる。

## 6. まとめ

世界各国で、英語教育が必修化あるいは教科化されている中で、日本においても平成23年度から5・6年生対象に年間35時間の外国語活動が必修化の見通しとなった。原則的に外国語は英語であるため、小学校英語の本格的導入が決まったことになる。

しかし、平成20年3月の文部科学省の報道発表によれば(文科省、2008)、平成19年度の小学校英語活動の実施割合は97.1%にもかかわらず、年間平均実施時間数は15.9時間(第6学年)で、主たる指導者別時間数では各学年とも「学級担任」が最も多く、いずれも9割を超えていた。よって、必修化後に年間35時間の授業回数をこなすための「英語教授力(英語力、指導力)」を持たないことに不安を抱く小学校教員は相当数いると思われる。公の教員研修の場も限られており、外部研修に参加できない教員も多いと言われている。また、限られた予算で2万校を超える全公立小学校へのALTの配置は不可能である。

筆者らの研究の目的は、日本の小学校英語活動の指導体制の実情を鑑み、音声活動と相乗効果を生むような文字導入方法を検討しながら、指導者研修のための音声教材を教育現場に提供することであるが、小学校英語指導者、とくに小学校教員の持つ「英語

力に対する不安感」を少しでも取り除き、教育現場で活かせる「英語教授力」の向上を目指すための自己研修教材の必要性や有効性は極めて高いということが2つの意識調査（「予備調査」「本調査」）から明らかになった。また、試作品に関するアンケート調査結果からは、小学校教員の「音声活動」への意識の高さと、本CD試作教材および解説書に対する好意的な評価が浮き彫りになったと言えるのではないだろうか。このことは、「アルファベット文字には名前と音がある」というPhonemic Awareness育成を目指した教材開発が持つ可能性の大きさを示唆するものであろう。平成20年には、文科省が全国の拠点校に配付した「英語ノート（試作版）」が話題を呼んだが、本ノートの第6学年では「アルファベットの大きい文字と名前」を知る活動にとどまっているため、小学校で中心となる「音声活動」においてPhonemic Awareness育成という視点が欠けていることは残念なことである。

今後の課題としては、本CD試作教材の改善・改良のために、さらに多くの小学校教員に試作品を提供し、使用者からの率直な感想や意見を求めることができるような意識調査の実施およびデータ集計・分析を行なうことが重要である。そのためには、今回使用したアンケート調査の質問項目や形式の改善も検討しなければならないであろう。教育現場の声を活かしながら、小学校英語指導者のための音声教材開発研究を続けていく予定である。

#### 注釈

本CD教材の試作にあたり松香フォニックス研究所・宮清子氏と久保章子氏に多大な協力をいただきました。この場を借りて感謝の意を表します。

#### 引用文献

- 1) 金澤延美・伊東弥香（2007）. 「韓国の初等英語に関する調査－日本の小学校英語カリキュラム開発への示唆を探る－」、『研究紀要 第40号』、駒沢女子短期大学、pp.9-25.
- 2) 伊東弥香・金澤延美（2007）. 小学校英語の指導者に求められる資質と必要とされる指導者研修－公立小学校教員の『英語活動』に関する意

識調査－』、『小学校英語教育学会紀要 第7号』、小学校英語教育学会、pp.1-6.

- 3) 金澤延美・伊東弥香（2008a）. 「『英語活動』に関する公立小学校教員の意識調査－小学校英語の指導者の資質と指導研修について－」、『小学校英語教育学会紀要 第8号』、小学校英語教育学会、pp.61-68.
- 4) 金澤延美・伊東弥香（2008b）. 「小学校英語指導者のためのPhonemic Awareness育成を目指す音声教材開発－小・中連携を視野に入れた文字指導との融合を目指して－」、『研究紀要 第41号』、駒沢女子短期大学、pp. 1-11.
- 5) 文部科学省（2008）. 「小学校英語活動状況と英語教育改善実施状況調査（中学校・高等学校）」、東京：文部科学省.

## 小学校英語指導者のための CD 教材に関するアンケート調査

## ご協力へのお願い

子どもは小学校英語指導者のための教材開発研究を行っております。お送りした CD 教材「歌って学ぼうアルファベットの音と文字」をご使用后、アンケート調査にご協力いただきたく、宜しくお願ひ申し上げます。金澤延美（駒沢女子短期大学）・伊東弥香（東海大学）

## &lt;回答方法について&gt;

\* 選択式の質問： 該当箇所のマーク○を黒く塗りつぶしてください。

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
例	(項目)	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

\* 記述式の質問： 自由にご記入ください。

## I. ご自身と勤務校について、お答えください。

## (1) ご自身について

1	性別	男性 <input type="radio"/>	女性 <input type="radio"/>					
2	年齢	20代 <input type="radio"/>	30代 <input type="radio"/>	40代 <input type="radio"/>	50代 <input type="radio"/>	60代 <input type="radio"/>		
3	担任	1年生 <input type="radio"/>	2年生 <input type="radio"/>	3年生 <input type="radio"/>	4年生 <input type="radio"/>	5年生 <input type="radio"/>	6年生 <input type="radio"/>	その他 <input type="radio"/>
4	教員歴	1～5年 <input type="radio"/>	6～10年 <input type="radio"/>	11～15年 <input type="radio"/>	16～20年 <input type="radio"/>	21～25年 <input type="radio"/>	26～30年 <input type="radio"/>	30年以上 <input type="radio"/>
5	英語活動の経験	なし <input type="radio"/>	あり <input type="radio"/>					

## (2) 勤務校について

6	英語活動の実施	1～2年未満 (H19年度～) <input type="radio"/>	2～3年未満 (H18年度～) <input type="radio"/>	3～4年未満 (H17年度～) <input type="radio"/>	4～5年未満 (H16年度～) <input type="radio"/>	5年以上 (H15年度以前～) <input type="radio"/>
7	英語活動実施状況(年間)	1～3回 <input type="radio"/>	4～10回 <input type="radio"/>	11～34回 <input type="radio"/>	35回 <input type="radio"/>	36回以上 <input type="radio"/>
8	英語活動の対象	なし <input type="radio"/>	3, 4, 5, 6年 <input type="radio"/>	4, 5, 6年 <input type="radio"/>	5, 6年 <input type="radio"/>	全学年 <input type="radio"/>
9	指導者	なし <input type="radio"/>	担任のみ <input type="radio"/>	担任+ALT <input type="radio"/>	担任+JTE <input type="radio"/>	担任+その他 <input type="radio"/>

ALT = Assistant Language Teacher (ネイティブスピーカーの外国語指導助手)

JTE = Japanese Teacher of English (日本人の英語講師)



Ⅱ. CD教材「歌って学ぼうアルファベットの音と文字」について、お答えください。

(3) CDの使用について

10	使用状況	1～2曲聞いた	1/3程度聞いた	半分程度聞いた	2/3程度聞いた	全部聞いた
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	使用頻度	1回	2回	3回	4回	5回以上
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	使用場所	勤務先	自宅	通勤時	左の2つ以上	その他
		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(4) CD教材とCD解説書について－「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
13	歌とアルファベットの音の解説	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14	アルファベットの音の練習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15	聞き取り練習	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16	教室英語	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17	早口言葉・ことわざ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18	アクティビティ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19	イラスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
コメント：						

(5) 「歌とアルファベットの音の解説」について－「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
20	解説・説明	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21	ネイティブスピーカーの英語	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22	練習問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
23	イラスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
コメント：						

(6) 「アルファベットの音の練習」について－「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
24	解説・説明	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
25	ネイティブスピーカーの英語	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
26	練習問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
27	イラスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
コメント：						

## (7) 「聞き取り練習」について－「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
28	練習問題の量	○	○	○	○	○
29	練習問題の難易度	○	○	○	○	○
コメント：						

## (8) 「教室英語」について－「英語の音と文字」の理解・練習に役立ちましたか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
30	教室英語の数	○	○	○	○	○
31	教室英語の難易度	○	○	○	○	○
32	イラスト	○	○	○	○	○
コメント：						

## (9) 「早口言葉・ことわざ」について－何らかの改善が必要だと思いませんか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
33	音声による説明・解説	○	○	○	○	○
34	ネイティブスピーカーの英語	○	○	○	○	○
35	練習問題	○	○	○	○	○
36	イラスト	○	○	○	○	○
コメント：						

## (10) 「アクティビティ」について－何らかの改善が必要だと思いませんか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
37	音声による説明・解説	○	○	○	○	○
38	ネイティブスピーカーの英語	○	○	○	○	○
39	教室英語	○	○	○	○	○
40	イラスト	○	○	○	○	○
コメント：						

## (11) CD教材とCD解説書について－どのような「英語教授力」の向上に役立つと思いませんか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り思わない	そう思わない
41	英語を聞く力	○	○	○	○	○
42	英語を話す力	○	○	○	○	○
43	英語の発音	○	○	○	○	○
44	教室英語	○	○	○	○	○
45	指導技術	○	○	○	○	○
コメント：						

(12) 小学校指導者用「自己研修教材」について－どのようなものが役立つと思いますか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り 思わない	そう 思わない
46	マニュアル, 参考書	○	○	○	○	○
47	ワークブック	○	○	○	○	○
48	ビデオ教材	○	○	○	○	○
49	CD 教材	○	○	○	○	○
50	コンピュータ教材	○	○	○	○	○

(13) 小学校指導者用「自己研修教材」の内容について－どのような内容が役立つと思いますか

		そう思う	やや思う	どちらでもない	余り 思わない	そう 思わない
51	ゲーム	○	○	○	○	○
52	歌・チャンツ	○	○	○	○	○
53	絵本	○	○	○	○	○
54	日常会話	○	○	○	○	○
55	アルファベット	○	○	○	○	○
56	教室英語	○	○	○	○	○

IV. CD 教材「歌って学ぼうアルファベットの音と文字」について、ご意見などをご自由にお書きください。

---



---



---



---



---



---



---

V. 「小学校英語必修化」に対する、ご自身の準備、ご意見などをご自由にお書きください。

---



---



---



---



---



---



---

ご協力ありがとうございました

資料 2

表2. 回答者の属性：性別・年齢

	20代	30代	40代	50代	合計
男性	0	1	3	2	6
女性	5	4	5	2	16
合計	5	5	8	4	22

表3. (Q12) CDの使用場所

	度数	パーセント
勤務先	13	59.1
自宅	6	27.3
通勤時	0	0
上の2つ以上	1	4.5
その他	1	4.5
上の2つ以上 + その他	1	4.5
合計	22	100.0

表4. (Q17) 早口言葉・ことわざ

	度数	パーセント
そう思う	7	31.8
やや思う	8	36.4
どちらでもない	5	22.7
そう思わない	2	9.1
合計	22	100.0

表5. (Q25) ネイティブ・スピーカーの英語

	度数	パーセント
そう思う	17	77.3
やや思う	4	18.2
どちらでもない	1	4.5
合計	22	100.0

表6. (Q28) 練習問題の量

	度数	パーセント
そう思う	7	31.8
やや思う	11	50.0
どちらでもない	2	9.1
余り思わない	1	4.5
そう思わない	1	4.5
合計	22	100.0

表7. (Q29) 練習問題の難易度

	度数	パーセント
そう思う	10	45.5
やや思う	7	31.8
どちらでもない	2	9.1
余り思わない	1	4.5
そう思わない	2	9.1
合計	22	100.0

表8. (Q30) 教室英語の数

	度数	パーセント
そう思う	11	50.0
やや思う	10	45.5
どちらでもない	1	4.5
合計	22	100.0

表9. (Q31) 教室英語の難易度

	度数	パーセント
そう思う	14	63.6
やや思う	5	22.7
どちらでもない	3	13.6
合計	22	100.0

表10. (Q33) 音声による説明・解説

	度数	パーセント
そう思う	5	22.7
やや思う	3	13.6
どちらでもない	5	22.7
余り思わない	1	4.5
そう思わない	5	22.7
合計	19	86.4
未回答	3	13.6
	22	100.0

表11. (Q34) ネイティブ・スピーカーの英語

	度数	パーセント
そう思う	6	27.3
やや思う	2	9.1
どちらでもない	4	18.2
余り思わない	2	9.1
そう思わない	5	22.7
合計	19	86.4
未回答	3	13.6
	22	100.0

表12. (Q41) 英語を聞く力

	度数	パーセント
そう思う	15	68.2
やや思う	5	22.7
余り思わない	1	4.5
合計	21	95.5
未回答	1	4.5
	22	100.0

表13. (Q43) 英語の発音

	度数	パーセント
そう思う	16	72.7
やや思う	3	13.6
どちらでもない	2	9.1
合計	21	95.5
未回答	1	4.5
	22	100.0

表14. (Q44) 教室英語

	度数	パーセント
そう思う	10	45.5
やや思う	9	40.9
どちらでもない	2	9.1
合計	21	95.5
未回答	1	4.5
	22	100.0

表15. (Q49) CD教材

	度数	パーセント
そう思う	17	77.3
やや思う	3	13.6
どちらでもない	1	4.5
余り思わない	1	4.5
合計	22	100.0

表16. (Q46) マニュアル・参考書

	度数	パーセント
そう思う	9	40.9
やや思う	11	50.0
どちらでもない	1	4.5
余り思わない	1	4.5
合計	22	100.0

表17. (Q48) ビデオ教材

	度数	パーセント
そう思う	10	45.5
やや思う	5	22.7
どちらでもない	4	18.2
余り思わない	3	13.6
合計	22	100.0

表18. (Q56) 教室英語

	度数	パーセント
そう思う	20	90.9
やや思う	2	9.1
合計	22	100.0

表19. 自由記述

大項目	中項目	人数
良かった点	発音	7
	歌・チャンツ	4
	テキスト	1
	計	12
改善して欲しい点	CDに入れて欲しいもの	3
	テキスト	
	その他	2
	計	3
	計	11
その他		
	計	2
合計		25